

製材工場の荷動き・価格先行き動向調査(25年6月分) 1

1. 調査実施期間 平成25年 5月20日 ～25年6月10日
2. 調査実施方法
全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
6月分の回答企業数は17社である。
3. 判断指数の算出方法
各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

ア. 国産材

(1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		25/6月	7月	8月
入荷動向	スギ	-10.0	-5.0	15.0
	ヒノキ	-7.1	-21.4	-21.4
	カラマツ	-25.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	50.0
消費動向	スギ	15.0	25.0	25.0
	ヒノキ	0.0	21.4	14.3
	カラマツ	50.0	50.0	0.0
	トドマツ	25.0	50.0	50.0
在庫動向	スギ	0.0	-16.7	-5.6
	ヒノキ	0.0	-14.3	-7.1
	カラマツ	-75.0	-50.0	-25.0
	トドマツ	-50.0	-75.0	-75.0

入荷はスギ、カラマツが6月マイナスから8月のゼロあるいはプラスに、ヒノキはマイナス基調で推移、トドマツは6月ゼロから8月大幅プラスに。
消費はスギ、ヒノキ及びトドマツは8月に向けプラスに、カラマツは6月プラスから8月に向けゼロに。
在庫はスギ、ヒノキとも6月ゼロから8月に向けマイナスに、カラマツ及びトドマツは大きなマイナス基調で推移。

(2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	25/6月	7月	8月
スギ	-25.0	-10.0	20.0
ヒノキ	-25.0	-7.1	28.6
カラマツ	0.0	0.0	25.0
トドマツ	0.0	50.0	50.0

スギ、ヒノキとも6月の大きなマイナスから8月にはプラスに、カラマツ、トドマツ6月のゼロから8月に向けやや強含み。

モニターからのコメント

（原木荷動き）・スギ丸太は素材生産業者が国有林請負のため伐採量減少、入荷量減少。・春先の荷動遅かった分5月以降の注文増え生産増。・主力のヒノキ丸太減少気味、今後の価格動向に要注意。・5月に入りスギ出材大幅増、ヒノキ横ばいも共に質低下。消費はスギの注文多くスギ主体に製材（柱、梁、桁、間柱）。在庫は当用買いに徹したいが出材多くなると付合いで在庫増。・スギ丸太は虫害であまり買えないが、常にフル生産で消費変動ない。・スギは梅雨で山から出でず。消費は消費税、木材利用ポイント等追い風。・6月から工場土場へ搬入本格化、ラミナ用カラマツ、トドマツとも不足気味で国有林生産本格化までの2,3カ月間は続く。消費はカラマツラミナ向は定量生産で横ばい、トドマツは栈木受注とラミナパネル用心材を生産、ほぼ横ばい。在庫は不足気味。・梅雨明まで入荷回復の見通しつかず例年この時期は減少傾向。消費も大きな動きない様子。・ヒノキ丸太は例年、農繁期の6月は集めにくい、ボリュームとしては横ばい推移と予想、ヒノキ6mの出材5月後半から極端に減、四国、九州からの出材出足鈍い。5～7月は大きな変動なく消費予定。在庫は無視、干割時期で極端に減らす計画。・ヒノキ丸太入荷減は時期によるもの、消費は外材値上がりに関係なく例年の動き。在庫も例年通り。・痛みやすい時期で仕入れ控えたいが空梅雨で出材減らず。生産は1シフトフル稼働を継続。契約購入しているため在庫増。・入荷は梅雨のためやや減少後、回復。・時期的減少、冬・春の旺盛な出材で原木在庫高位、必要量手当。・カラマツ、トドマツ6月は出材期待できず生産を下回る入荷、トドマツ資源量少なく今後入荷心配。消費はカラマツはパレット特需で7月までは大量消費、年明け以降ラミナも急激に回復、トドマツ羽柄材需要に牽引されている。

（原木価格）ヒノキ丸太価格変動激しく要注意。安定を望む。・スギ丸太山元直納で価格は今のところ動かず。・スギ丸太出材大幅に増、虫害、日割れ時期で安くても手が出せず、じり安傾向。・現在やや下落も8月に向け供給量減少で上昇。・スギは梅雨明消費が上がり、やや上昇と予想。・カラマツは梱包材工場の動き良くないため翌月くらいまで横ばい、トドマツ不足感あり、7月以降上がると予想。・梅雨期は丸太の量が最小となり徐々に引合出でくると予想。・ヒノキは6月に入り3,4mはやや上がり基調、6mは先月からの不足感もあり高値推移。梅雨の影響もあるが後半出材増えれば価格も安定してくるか。・ヒノキ丸太はこの時期例年若干弱含み。・虫害時期で契約価格下げたが、梅雨により出材減れば価格引き上げざるを得ないと予想。・横ばい、需要堅調で尻上がり上昇か。・カラマツは合板向け上がっており、製材向けは5月に500～1,000円上がって以降変わらず、トドマツは出材始まれば上がると予想。

製材工場の荷動き・価格先行き動向調査(25年6月分) 2

(3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		25/6月	7月	8月
生産動向	スギ	20.0	30.0	20.0
	ヒノキ	-7.1	14.3	7.1
	カラマツ	50.0	50.0	0.0
	エゾ・トド	25.0	50.0	50.0
出荷動向	スギ	35.0	35.0	40.0
	ヒノキ	7.1	14.3	7.1
	カラマツ	50.0	50.0	0.0
	エゾ・トド	0.0	50.0	100.0
在庫動向	スギ	15.0	15.0	10.0
	ヒノキ	7.1	-14.3	-14.3
	カラマツ	33.3	16.7	0.0
	エゾ・トド	-33.3	-33.3	-33.3

生産はスギ及びエゾ・トドはプラス基調、ヒノキは6月のマイナスから8月に向けプラスに、カラマツは6,7月プラスから8月に向けゼロに。
 出荷はスギ、ヒノキともプラス基調で推移、カラマツは6,7月プラスから8月にはゼロに、エゾ・トドは6月のゼロから8月に向けプラスに。
 在庫はスギはプラス基調、ヒノキは6月プラスから8月に向けマイナスに、カラマツは6,7月プラスから8月ゼロに、エゾ・トドはマイナス基調で推移。

(4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		25/6月	7月	8月
スギ	柱角 KD10.5×3	20.0	15.0	25.0
	柱角 KD12×3	20.0	10.0	10.0
	通し柱 12×6	12.5	6.3	6.3
	桁角	0.0	6.3	12.5
	母屋角	11.1	5.6	11.1
	タルキ	7.1	7.1	7.1
	間柱	27.8	16.7	16.7
	ヌキ	0.0	0.0	0.0
	平割	0.0	5.6	5.6
	ラミナ	16.7	0.0	0.0
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	7.1	7.1	14.3
	柱角 KD12×3	7.1	0.0	7.1
	土台角 10.5×4	7.1	14.3	21.4
	土台角 12×4	7.1	0.0	14.3
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
	ラミナ	0.0	0.0	0.0
カラマツ土台角10.5×4				
" 梱包仕組み板		0.0	0.0	0.0
" ラミナ		0.0	25.0	0.0
トドマツサンギ		0.0	0.0	50.0

スギ製材品は横ばいのヌキ以外は総じて保合ないし強保合、ヒノキは総じて横ばいがないし、品目によりやや強保合。カラマツ梱包仕組み板、ラミナは、ほぼ様横ばい、トドマツサンギは6,7月ゼロが8月プラスに。

モニターからのコメント

(製材品荷動)フル生産、スギ徐々に売れ行き良くなる。・スギは生産増で在庫増。即納体制。・消費はスギの注文多くスギ主体に製材。スギ在庫は増、ヒノキは減。・生産は受注次第。・カラマツラミナ向けは横ばい、トドマツは栈木受注とラミナパネル用心材を生産、ほぼ横ばい。出荷はカラマツラミナ横ばい、トドマツ栈木本州向若干荷動き不良。在庫は栈木でトレーラー1車程度。・良材丸太少なく、製品も木柄の良い物少なく売りにくくなる。・ヒノキ構造材は大きな変化なく消費する予定。出荷はヒノキ構造材は今春以降安定的に動いており、羽柄材は特定サイズのみ流通、一部停滞感ある。ヒノキの在庫量を1カ月、販売量の1.3カ月程度でコントロール。・来月からの需要増を見込み残業等で生産量増やしたい。出荷は受注残が増。主製品の柱、土台は売りやすいが、副製品の野地板、胴縁等の荷動き回復せず在庫量減らない。・スギ製品の生産・出荷は乾燥材のみ増加。・生産増加、出荷も木材利用ポイントで増加、在庫増減なし。・カラマツパレット特需で大量消費続くが、8月以降通常に、8月以降はラミナ以外期待できないと予想、パレット梱包関係は産業空洞化等で需要少なくなっている。トドマツは為替、CIFの高騰から国産材への需要高まっているが原料入荷不安定で争奪状態。

(製材品出荷価格動向)・スギ柱角は量産工場の売で当面やや下落～横ばい。単価上げず売行重視。・スギ変動なし。ヒノキ今後少し上昇。・外材、集成材代替材としてやや上昇。・全体的にやや上昇。・かなり値戻、出荷増で止まり。スギは売りやすいが単価上昇一部銘柄のみ。ヒノキも多少売りやすく。・スギは、円安と在庫無く、やや上昇。・カラマツラミナは5月値上げ後3カ月横ばい、トドマツ栈木は欧州材、ロシア材に左右され荷動き若干弱く横ばい。・ヒノキはスギ、集成材の価格に影響されるが安定的価格推移予想。・ヒノキは一定期間で単価契約、変動なし。・スギKD10.5角来月から値上、同12角現状維持と見込み、その他は値上予定なし。間柱は新規問い合わせ増、新規客は値上価格で対応。ヒノキKD12角売りにくい、それ以外のKDは売やすく安値販売せず。ヒノキラミナは値上げ通りにくい。足場板、破風板は不需用期、顧客限定で価格維持。・スギ柱KD10.5角は品不足感、やや上昇。・スギ価格上昇止まった、ヒノキは盛り上がり欠け、価格変動小と予想。・カラマツはパレット、梱包は横ばい、ラミナは7月値上げ予定。トドマツ羽柄材は輸入材に対する割安感から毎月値上がり。

製材工場の荷動き・価格先行き動向調査(25年6月分) 3

イ. 外材

(1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		25/6月	7月	8月
仕入動向	米マツ丸太	0.0	0.0	0.0
	NZラジータ	-50.0	-50.0	50.0
	北洋エゾマツ丸太			
	北洋アカマツ丸太			
	北洋アカマツ原板			
消費動向	米マツ丸太	0.0	0.0	-25.0
	NZラジータ	-50.0	0.0	50.0
	北洋エゾマツ丸太			
	北洋アカマツ丸太			
	北洋アカマツ原板			
在庫動向	米マツ丸太	0.0	0.0	0.0
	NZラジータ	0.0	50.0	-50.0
	北洋エゾマツ丸太			
	北洋アカマツ丸太			
	北洋アカマツ原板			

製材用原木の仕入は、米マツ丸太は横ばい、NZラジータ丸太は6,7月マイナスが8月にはプラスに。
消費は、米マツ丸太は、6,7月のゼロから8月はマイナスに、NZラジータ丸太は6月のマイナスから8月にはプラスに。
在庫は、米マツ丸太は横ばい推移、NZラジータ丸太は6月のゼロから7月のプラスを経て8月にはマイナスに。

(2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	25/6月	7月	8月
米マツ丸太	50.0	0.0	0.0
NZラジータ丸太	100.0	0.0	0.0
北洋エゾマツ丸太			
北洋アカマツ丸太			
北洋アカマツ原板			

原木購入価格は、米マツ丸太、NZラジータ丸太ともに6月プラスで、8月に向け横ばい。

モニターからのコメント

(原木荷動)

・NZ材は円高にもかかわらず需要未だ少なく、丸太価格最高値ゆえ輸入量を減らしている。今後需要多少増により、仕入れ増加の予定。次第に需要増を期待し在庫減。

(原木価格動向)

・NZ丸太は史上最高値、FOB25%アップ、為替25%で11月から50%コストアップ。

製材工場の荷動き・価格先行き動向調査(25年6月分) 4

(3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		25/6月	7月	8月
生産動向	米マツ製材品	0.0	0.0	-25.0
	NZラジアータ製材品	-100.0	0.0	50.0
	北洋エゾマツ製材品			
	北洋アカマツ製材品			
出荷動向	米マツ製材品	-25.0	100.0	-50.0
	NZラジアータ製材品	-50.0	0.0	50.0
	北洋エゾマツ製材品			
	北洋アカマツ製材品			
在庫動向	米マツ製材品	25.0	0.0	0.0
	NZラジアータ製材品	50.0	0.0	-50.0
	北洋エゾマツ製材品			
	北洋アカマツ製材品			

製材品生産動向は、米マツ製材品は6,7月横ばいから8月はマイナスに、NZラジアータ製材品は6月マイナスから8月にはプラスに。

製材品出荷動向は、米マツ製材品は6月のマイナスから、7月のプラスを経て8月マイナスに、NZラジアータ製材品は6月マイナスから8月にはプラスに。

在庫は、米マツ製材品は6月にプラスの後横ばい、NZラジアータ製材品は6月プラスから8月にはマイナスに。

(4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	25/6月	7月	8月
米マツ平角	50.0	0.0	0.0
米マツ正角	50.0	50.0	0.0
米マツ小割	25.0	0.0	0.0
北洋エゾマツタルキ			
北洋アカマツタルキ			
NZ梱包材(割板)	50.0	50.0	50.0
NZ梱包材(割角)	50.0	50.0	50.0
NZ土木用材	50.0	50.0	50.0
その他			

製材品出荷価格は、米マツは6月強含みないし強保合いから8月に向け保合いへ、NZ材製材品は強保合いで推移。

モニターからのコメント

(製材品荷動き)

- ・NZ丸太価格最高値だが需要少なく値上げできず。円安効果により需要増を期待。
- ・米マツ製材品は先行き不透明。

(製材品出荷価格動向)

- ・コストアップ分の40%しか値上げできず、需要足らず今後の値上げは不透明。業界存亡の時と判断。国内企業の技術低下、長い円高のため産業の空洞化原因か。
- ・KDのみ価格上昇。先行きは判らない。